

国語科学習指導案

指導者 千葉市立〇〇〇中学校

教諭 〇〇 〇〇

展開日時 平成30年10月16日(火) 14:00

展開場所 図書室

1. 単元名 昔話から千葉を知ろう (1年)

2. 単元の目標

- (1) 千葉の昔話を読むことを通して、進んで古典を読んだり、千葉との関わりについて考えたりしようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 昔話の展開や千葉と繋がりのある描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。 (読むこと)
- (3) 本や文章から、発表するために必要な情報を読み取ることができる。 (読むこと)
- (4) 昔話が古典作品の一種であることを理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・千葉の昔話を読むことを通して、進んで古典を読んだり、千葉との関わりについて考えたりしようとしている。	・昔話の展開や千葉と繋がりのある描写に注意して読み、内容を理解している。(ウ) ・本や文章から、発表するために必要な情報を読み取っている。(カ)	・昔話が古典作品の一種であることを理解しようとしている。(ア(イ))

4. 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元は、千葉県の昔話を読み、班ごとに紹介内容を考え、交流会を行う単元である。

小学校の古典学習では、「竹取物語」や「枕草子」を扱っている。これは中学校でも扱う教材であるが、これらの作品が昔話と繋がっていることに関しては触れる機会が少ない。また、今年2018年は千葉一族中興の祖と呼ばれる千葉常胤の生誕900年の年であり、千葉市ではポスターを制作するなどしてPRを行っている。しかし、それらをきっかけとして、生徒が千葉市あるいは千葉県の古き良き伝統や文化を実感している場面は少ないように感じる。特に、親世代が千葉以外の出身である場合、生徒自身が千葉に対する郷土意識を持ちにくいのではないかと考えられる。加えて2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックでは千葉県内を会場とする競技がいくつかあり、大会に向けて国際的な視点が必要とされる場面が増えると予想される。その視点をもつ基盤として、自身が生活している地域に目を向け、地域の魅力を知る必要があると考える。

そこで今回は、「古典のルーツには昔話があることを知る」とこと、「千葉が登場している昔話を読むこと」で郷土愛を育むことを目標に単元を展開していきたい。

今回の学習で扱う千葉県の昔話は「印旛沼のりゅう」「かつばのおんがえし」「千葉のはごろも」「片歯の梅」「千葉笑い」「證誠寺の狸ばやし」「身代わり観音」「忠犬小金丸」「東福寺の鴨」「きず地蔵」「君待橋」の計11編である。まず、昔話が掲載されている本を各自で読み、より深く知りたい、紹介したい昔話を選ぶ。次に昔話ごとに4人班を9グループづくり、班で紹介内容(あらすじ、舞台となった地域など)を調べる。それをホワイトボードに項目でまとめ、最後にワールドカフェ方式で交流会を行う。交流会では、4人のうち1人が発表者として残り、あとの3人は他の班の発表を聞きに行くという活動を3回行う。ただし、話すことが苦手な生徒への配慮として、各班2人は共同で活動することとする。

生徒が今回の授業を通して複数の千葉県の昔話を知り、将来、その舞台となった場所を訪れた際には「この場所には、こんなお話がある」と語れるようになることを願っている。

(2) 単元で身につけさせたい力

本単元では、中学校指導要領第1学年「読むこと」の指導事項のうち、「ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」の力をつけていきたい。本によっては方言が用いられていたり、その時代特有の考え方が描写されていたりする。それらを的確に読み取り、内容の理解を深めるようにしたい。また、昔話に登場する地域などを他の資料を用いて調べる活動を行うことで、必要に応じて情報を収集する力の習得にも繋げていきたい。

(3) (1)と(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

本校では、毎朝10分間の読書活動を行っている。各自で自宅や学校図書館、学級文庫から興味のある本を選んで読んでおり、読書に親しむ時間となっている。

また、学校図書館指導員と連携した図書館オリエンテーションや、全国読書感想文コンクール課題図書ブックトークなど、定期的に学校図書館で授業を行い、生徒が本を手に取りやすい環境づくりを心がけている。

本や文章から必要な情報を読み取ることについては、5月に説明文「ダイコンは大きな根？」の発展学習として、学校図書館の本を用いて情報を収集し、短い論説文を書く取組を行っている。

5. 生徒の実態 省略

6. 単元の指導計画(全4時間)

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	○学習内容を理解し、見通しをもつ。 ○11編の昔話の本を自由に手に取り、より深めたいものを第5希望まで決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの本にどの題名の昔話が掲載されているのか紹介する。 ・担当する昔話は個人で希望をとる。 ◇興味のある昔話を読み、より深めたい昔話を選んでいる。(観察)
2	○担当する昔話の班を確認する。 ○班で担当になった千葉県昔話を個人で読む。 ○読んだ内容を班で確認し、地域や人物などを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の希望を基に9つの班を割り当てる。 ・交流会で発表する観点を見つけられるよう、班の活動を支援する。 ◇積極的に昔話を読み、発表する内容を考えている。(観察・ノート)

3	<p>○班ごとにホワイトボードにまとめ、発表の準備を行う。</p> <p>○交流会の形式を理解し、交流をしにいく班の予定を立てる。</p>	<p>・見本を作成し、提示する。</p> <p>・「あらすじ」「舞台となった地域」「おすすめポイント」は必ず書くように指示する。</p> <p>◇積極的に発表の準備を進めている。 (ホワイトボード・観察)</p>
4 (本時)	<p>○交流会を行う。</p> <p>○自分の発表を責任もって行い、他の班の発表に積極的に耳を傾ける。</p> <p>○単元を通して感じたことをプリントに書く。</p>	<p>・交流会がスムーズに進むよう計時をするなどの支援をする。</p> <p>・メモはプリントにとらせる。</p> <p>◇他の班の発表に興味をもち、聞いて感じたことや考えたことをまとめている。 (発表・プリント)</p>

7. 研究の重点との関連

② 深い学びを支える学校図書館利活用に関する研究

・学校図書館指導員との連携

本校では学校図書館指導員が週4日勤務しており、学校図書館を活用した授業の相談や、普段の読書活動におけるレファレンスなど、多岐に渡って連携をとっている。

本単元を展開するにあたって、「どの昔話を授業で扱うか」という授業構想に始まり、扱う昔話が決定した後は、本の収集に協力を集めてもらった。

また、生徒の興味・関心を高めるため、千葉の昔話に関する掲示物と、千葉の方言を紹介する掲示物を作成してもらった。これらを授業の導入部分で活用することで、昔話が地域と繋がっていることを意識することができ、身近な存在として読むことができるだろうと考える。さらに、単元が終了した後は他の千葉県の昔話を用いて学校図書館指導員と連携した授業を展開する計画を立てている。

③ 学校図書館の運営に関する研究

・千葉市図書館との連携

本単元では1つの昔話を4人で読むという活動があるため、複数冊の本を準備する必要がある。自校図書館や他の小中学校からの借用では対応できないため、千葉市図書館から借用した。このことにより、一度に多くの生徒が同じ本を手にとることができ、昔話に触れる機会を増やすことが可能になった。単元が終了した後も一定期間借用し、他の昔話を手にとることができる環境を整えた。学校図書館を運営するにあたって、自校の図書館環境を整備するだけでなく、他機関との連携を今後も大切にしたい。

8. 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・他の班の紹介を聞くことで、千葉の昔話について興味をもつことができる。(関心・意欲・態度)
- ・必要に応じて発表者に質問をしながら聞き取り、自分が調べた昔話との共通点や相違点を感じ取ることができる。(話すこと・聞くこと)

(2) 本時の学習活動

- ・担当する昔話を紹介する交流会を行い、多くの千葉の昔話に触れる。

(3) 本時の展開(4時間扱いの4時間目)

過程	学習活動	指導や支援の手立て (○) と評価 (◇)
導入 (10分)	1. 前時の学習を振り返り、本時の学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">交流会を通して、昔話から千葉を知ろう！</div>	○ホワイトボードと地図シートを見ながら、班ごとに交流会で話す内容を確認させる。
展開 (35分)	2. 交流会を開始する。(7分×3回実施) <div style="border: 1px dotted black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会はワールドカフェ形式で行う。班員4人のうち発表者1人は残り、他の3人は交流する班へ移動する。 [各班に用意するもの] ホワイトボード、地図シート [個人で用意するもの] ワークシート、筆記用具 ・昔話の「あらすじ」「舞台となった地域」「おすすめポイント」は必ず紹介する。 ・発表が早く終わった場合は、紹介された昔話に関する質疑応答をしたり、昔話の本を読んだりする。 </div> 3. 交流会の報告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の班に戻り、どのような交流をしてきたか、報告をする。 	○各班の人数を見て、人数の偏りがある場合は、人数調整をする。 ○移動終了後、計時することにより、交流会がスムーズに進むようにする。 ◇気になることは質問しながら、班の紹介を聞いている。(話・ワークシートの記入内容) ◇昔話を手に取り、読みを深めようとしている。(関・観察) ○千葉のどの地域の昔話が分かりやすくするために、地図シートを用いてもよいことを指示する。
まとめ (5分)	4. 本時を振り返る。 ・考えたことや感じたことをワークシートに書く。	○学習目標に照らし合わせ、本時の学習を振り返らせる。 ◇千葉の昔話に触れて、感じたことをまとめている。(関・ワークシートの記入内容)

(4) 本時の評価

- ・他の班の紹介を聞くことで、千葉の昔話について興味をもつことができたか。(関心・意欲・態度)
- ・必要に応じて発表者に質問をしながら聞き取り、自分が調べた昔話との共通点や相違点を感じ取ることができたか。(話すこと・聞くこと)

【資料】授業で取り扱う昔話

題名	地域	書名	あらすじ
かっぱのおんがえし	富津	「房総むかしむかし絵本」	かっぱが夫婦に恩返しをするが、村人に殺されてしまう。日照りで夫婦以外の畑は干からびてしまい、村人たちはかっぱに謝罪。その後雨が降ってくる。
印旛沼のりゅう	印旛	「房総むかしむかし絵本」	沼に住む竜が、日照りで困る村人のために空へ上る。雨が降ってきたが、竜は龍神の怒りにふれ3つに裂かれてしまう。村人は身体を探し、3つの寺を建立した。
片齒の梅	成田	「読みがたり 千葉のむかし話」	池の土手が切れてしまうため、親子が人柱として埋められる。赤ちゃんがかじっていた梅が木となって生えてきたので、村人は拝み、大切にした。
東福寺の鴨	流山	「千葉県ふるさとのむかし話」	田んぼが荒らされる原因を探したところ、門の飾りの鴨の足が汚れていた。動けないように目の部分をくぎで打ったところ、荒らされなくなった。
きず地蔵	香取	「千葉県ふるさとのむかし話」	村に賊が攻め入ってきたが、6人の兵士が倒した。翌朝、村の地蔵を見ると、身体のあちこちが欠けてしまっていたので、村人は大切にした。
證誠寺の狸ばやし	木更津	「房総の民話」	和尚が寺の庭でお囃子をする狸を見つける。毎晩、狸と腹太鼓の演奏を続けたが、ある朝、狸が破れた太鼓腹のまま横たわっているのを見つける。
忠犬小金丸	松戸	「千葉ふるさとむかし話」	殿様が愛犬の吠える声で昼寝から起きる。自分にとびかかろうとしたため、犬の首をはねたところ、首は蛇に噛みつき、殿様を守った。
千葉笑い	千葉	「読みがたり 千葉のむかし話」	村人がお面をかぶって不平不満を言い合う行事に殿様が参加する。自分を馬鹿にする声があがるが怒っても信じてもらえなかった。
身代わり観音	千葉	「千葉市の民話・伝説・歴史ばなし」	殿様が鷹狩りに行った帰りに、愛馬が何かにつまずいて倒れて死んでしまう。殿様はその場所に祠を建てて祀った。
君待橋 (きみまちばし)	千葉	「千葉市の民話・伝説・歴史ばなし」	いつも愛を語り合う橋が流されていて泣く女。慰めるために向こう岸にいた男は川へ飛び込むが流されてしまい、女も後を追って身を投げた。
千葉のはごろも	千葉	「房総むかしむかし絵本」	殿様が池で天女を見て、羽衣を持って逃げてしまう。後に天女と生活を共にするが、3年後天女は羽衣をまもって天へ昇っていってしまう。

「房総むかしむかし絵本」第3巻・第8巻 千葉県文学教育の会・編（ほるぷ出版 1976年）

「読みがたり 千葉のむかし話」 「千葉のむかし話」編集委員会（日本標準 2005年）

「千葉県ふるさとのむかし話」 荒川法勝・編（暁印書館 1995年）

「千葉市の民話・伝説・歴史ばなし」 安藤操・編（千秋社 1979年）

「房総の民話」 高橋在久・編（未来社 1976年）

「千葉ふるさとむかし話」 千葉興業銀行（1992年）

一年国語 学習プリント 昔話から千葉を知ろう ①

★千葉県の昔話を読んで、担当したい話を探そう。
○今後の授業のおおまかな流れ

①	十一個の昔話を自由に読んで、「もっとくわしく知りたい」「おもしろいから調べたい」という昔話を選び、第五希望まで決める。友達と相談はしないで自分で決める。
②	希望をもとに四人班を九つ設定する。班ごとでもう一度昔話を読んで、地域や人物などくわしく調べていく。
③	調べたことをもとに、発表する内容をまとめる。発表はホワイトボードを使って行うが、ホワイトボードには小見出しだけ箇条書きで書く。地図で場所を記入する。交流会の流れを知る。(班員四人のうち一人は発表者として残り、三人は他の班で交流をしに行く。交流の時間は三回あるので、四人班の発表者は一人、一人、二人というわかれ方になる。)
④	交流会。全体の前ではなく、班ごとに発表する。七分間のなかで発表を聞いて、気になることを質問したり、「この話って〜」という会話をしたりする。

○授業でつかう昔話

- | | |
|---------------|------------|
| ① 千葉のはごろも | ② 千葉笑い |
| ③ 君待橋(きみまちばし) | ④ 身代わり観音 |
| ⑤ かつばのおんがえし | ⑥ 印旛沼のりゅう |
| ⑦ 片齒の梅 | ⑧ 證誠寺の狸ばやし |
| ⑨ 東福寺の鴨 | ⑩ きず地蔵 |
| ⑪ 忠犬小金丸 | |

一年国語 学習プリント 昔話から千葉を知ろう ②

★交流会 発表用原稿を完成させよう。
組 番 氏名

○担当する昔話↓「 」

○使用した本の題名↓「 」

○あらすじ

○舞台となった地域↓「 」

↓地図シート

○おすすめポイント (場所のこと、人物のこと、話の魅力など…)

昔話から千葉を知ろう ③

組 番 氏名

★交流会でいろいろな昔話を知ろう。

②	①	題名
		昔話の感想、不思議に思ったこと、驚いたこと…

●報告会メモ 班員の報告で感じたことをメモしよう。

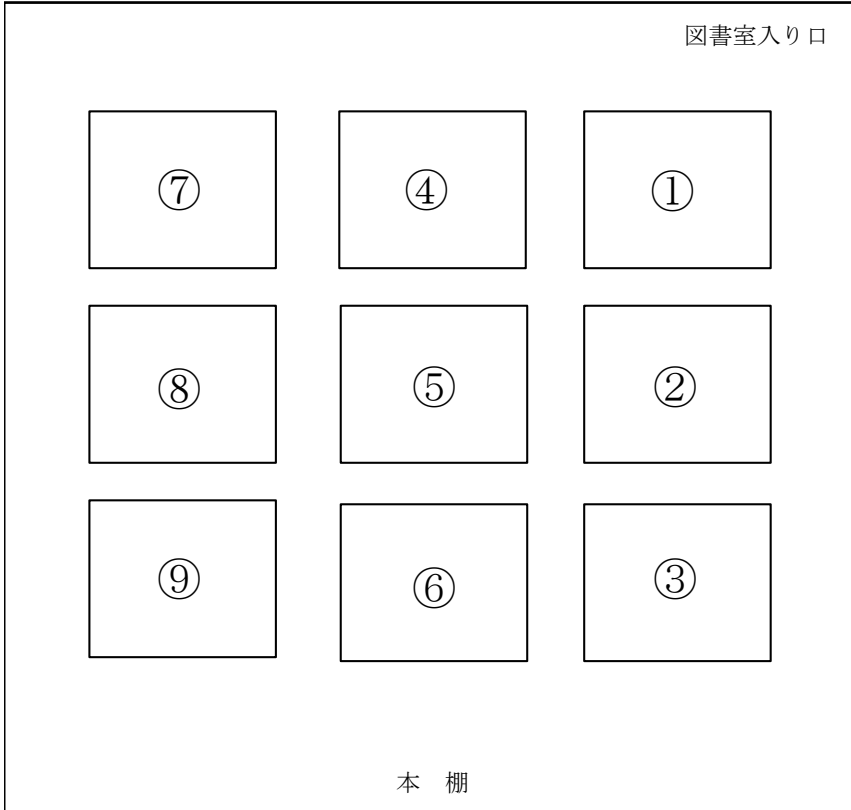
●千葉の昔話を読んでみて思ったこと、考えたこと

●自己評価 (◎、○、△で振り返ろう)

・発表をしっかりと聞くことができた。()

・気になったことを質問できた。()

交流会 座席表



- ①かっぱのおんがえし
- ②印旛沼のりゅう
- ③千葉笑い
- ④千葉のはごろも
- ⑤証城寺のためきばやし
- ⑥きず地蔵
- ⑦片齒の梅
- ⑧東福寺の鴨
- ⑨忠犬小金丸